

# 第1回松江市総合計画審議会 会 議 録

1 日時 平成28年4月28日(木) 15:00~16:55

2 場所 松江市役所 本庁西棟5階 防災センター

3 出席者

(1) 委員(五十音順)

青砥正幸委員、安部隆委員、西郷克典氏(今若康浩委員代理)、太田達也委員、岡清二委員、春日順子委員、葛西理世委員、狩野治子委員、河原和弘委員、工藤泰子委員、桑原正樹委員、後藤皖一委員、桜井豊委員、佐藤和彦委員、下山治子委員、杉村由紀子委員、瀬崎輝幸委員、竹内直喜委員、竹田尚子委員、中澤ゆかり委員、中島郁子委員、浅野博雄氏(野津立秋委員代理)、馬場範子委員、原完次委員、古瀬誠委員、本庄雅樹委員、松崎貴委員、箕田充志委員、山本平二委員

(2) 事務局

松浦正敬松江市長、星野芳伸政策部長、田原弘経営専門監、須山敏之政策部次長(兼政策企画課長)、岡田等政策係長、狩野勝専門企画員、松浦貢専門企画員、木村大介副主任、平塚稔副主任

4 内容

(1) 市長あいさつ

(2) 審議会成立宣言

(3) 会長の選出

(4) 諮問

(5) 会長の職務代理者の選任

(6) 議事 松江市総合計画条例第4条に基づく基本構想の策定について

(7) 意見交換

5 会議経過

開会

○須山政策部次長

それでは、定刻になりましたので只今から「第1回松江市総合計画審議会」を開催させていただきます。

本日、議事に入りますまで進行役を務めさせていただきます松江市政策部次長の須山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、資料の確認をさせていただきます。事前に資料をお送りさせていただいておりますが、「第1回松江市総合計画審議会次第」、「松江市総合計画審議会委員名簿」、「松江市総合計画条例」、「松江市総合計画審議会委員の代理出席に関する要綱」、「“新”松江市総合計

画基本構想目次（案）」以上5点お揃いでしょうか。

また本日、「第1回松江市総合計画審議会次第の差替え」、「委嘱状」、「席次表」、「“新”松江市総合計画策定について」、「“新”松江市総合計画に盛り込む要素（案）」をお配りしております。不足のものがございましたら、お申し出ください。

本日の審議会は、公開により行っております。ご了承願います。

本日は概ね5時頃を終了予定としておりますので、円滑な進行にご協力をお願いいたします。それでは、開会にあたりまして、松浦松江市長からごあいさつを申しあげます。

## (1) 市長あいさつ

### ○松浦市長

本日はお忙しい中、また、お足元の悪い中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

ご承知のとおり、今、人口減少対策ということ为国も地方も一緒になってやっているわけですが、この人口減少によって、色々な意味で地域が衰退をしていくということに対してどうするかということでございます。

私は、人口減少というものを1つのバネにして、チャンスとして捉え、対策を講じていくことが必要ではないかというふうに思っております。そのためには、人口減少についての危機意識を松江市民の皆様方に共通して持っていただき、やっていかなければいけない。他人事という形では、この問題はなかなか解決をしないと思っておりますので、あらゆる各界各層の皆様方が、それぞれの立場でぜひ色々と知恵を出し合って、対策を講じていく必要があるというふうに思っております。

そういう意味で、昨年度、多くの市民の皆様方のお力をお借りしまして、この人口減少に対応する対策として「第1次総合戦略」を策定いたしました。本日、ここにお出でをいただきました委員の皆様の中にもご尽力をいただきました方々が多数いらっしゃいます。この場をお借りして、改めてお礼を申しあげる次第です。

この「第1次総合戦略」は「人口ビジョン」というものが前提になっておりますが、1つは「出生数」を増やしていくこと、もう1つは外から人を呼び込む「社会増」という「2つの挑戦」をやっていく必要があるということで考えているわけでございます。また、人口減少というものが、大変長い期間の中で出てきた現象でございまして、この対策そのものも長期にわたっての取り組みが必要になってくるということだと思っております。そういう意味で、これは行政だけではなくて民間企業や市民の皆様方と一緒にアイデアを出し合っていく。まさに市民運動として、これはやっていく必要があるというふうに思っております。

今日は総合計画の審議会ということでございますけれども、私たちはこの総合計画をつくるにあたりましては、先に総合戦略をつくっていただきましたので、その総合戦略に足りない部分を上乘せしていくという考え方で、考え方をまとめていきたいというふうに思っております。

この前提としまして、総合計画でございますが、今までは地方自治法によりまして、各自治体に策定が義務付けられておりましたけれども、先般の改正によりまして、策定につきましては地方の自主的な判断に任せられました。もしもつくる場合は、条例を策定してつくっていくという段取りになったわけですが、私は、これはつくらなくてもよいということではなくて、むしろそれぞれの自治体の創意工夫というものをその中に盛り込んでいくことが求められている

というふうに思っております、先般、この計画策定のための条例を議会でお認めをいただき、今回この審議会を設置して策定をするということになったところでございます。

それから総合戦略というものは、人口減少・少子化対策に狙いを絞ったものになっておりますけれども、今回の総合計画では、人口減少・少子化対策の分野を中心に据えながらも、それ以外の分野も加えまして、補完・連携をして、まちづくり全体の指針にしたいと考えております。

総合計画をつくっていくうえにおいて、私たちが反省をしていかなければいけないと思っておりますのは、松江市が色々なデータを実は持っているわけでございますが、そうしたデータの活用が必ずしも十分ではなかったというところを深く反省しているところでございます。例えば、住民基本台帳は随分昔から行ってきております。これは、人口の総トータルはもちろんですが、人の出入り、どこから来てどこへ出ていくのかというようなデータがあるわけでございます。私どもは個人情報に対して少し遠慮気味なところがあって、こうしたものをデータ化するというのを今まであまりやって来なかったところがございます。個々の人の名前を使っていくということになるとこれはもちろん個人情報になりますが、それらをトータルして数値化をしていくということにつきましては、我々としては、今後の計画をつくっていくうえにおいては積極的に活用していく必要があるというふうに思っております。

例えば、今、中心市街地は随分人が減ってきたと、トータル的にはそのように言われているわけでございますが、ある地区だけを取り出してみますと、むしろ人口は増えているところがあるわけです。一体そういった方たちはどこから入って来ているのか、そういうふうなことについて実は全然分析をしておりません。これは、本当に我々は反省をしていかなければならないわけでございまして、そうしたものを分析することによって、どのようにしたらもっとまち中に人を呼び寄せることができるのか、あるいは、そういった方たちに対してどういうサービスを提供していったら良いのか。この方たちは若い人なのか、あるいは、お年寄りが多いのか。こういうふうな分析を十分して、それに対しての対策というものを打っていくと。市町村にとりましては、こうしたデータがあるということは一種のお宝を持っているということでございます。今までは本当に宝の持ち腐れと言ってもいいような状況でございましたので、今後積極的にこうしたデータというものを活用して総合計画の立案にぜひ活かしていきたいと。そのことが全国一律のような総合計画ではなくて、松江市ならではの、松江市独自の総合計画というものにつながっていくだろうというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

後ほど、事務局の方から説明をさせますけれども、当面の目標としましては、秋口を目途に総合計画の素案を策定したいというふうに思っております。そういうことで、皆様方には大変短期間のうちに多岐にわたるお願いをさせていただくことになると思っておりますが、ご負担をおかけすることになりまして、大変申し訳なく思っております。

これからの議論が、後の世代につながる有意義なものとなりますようにご協力をお願い申し上げて、ごあいさつとさせていただきます。皆様方と素晴らしい総合計画をつくっていきたく思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

#### ○須山政策部次長

改めまして、委員の皆様方、お忙しい中、たくさんお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本来ならば、委員の皆様お一人おひとりに市長から委嘱状をお渡しするべきでございまして、

本日は限られた時間でございますので、進行上、委嘱状はお手元に置かせていただいております。どうかご了承承願いたします。

委員の皆様におかれましては、任期が2年となっております。この総合計画の案をつくっていただくこと、それからその実施に向かってのご意見等もいただきたいということで任期を2年とさせていただきます。どうかよろしく願いいたします。

また、委員の皆様のご紹介も、本来ならば、委員の皆様お一人おひとりをご紹介すべきでございますが、大変失礼ながら、時間の都合上、お手元の委員名簿にてご紹介に替えさせていただきます。どうかよろしく願いいたします。

なお、本日は社会福祉協議会の安藤委員はご欠席という連絡を伺っております。

それから、本日もそうですが、お二方、代理の出席をいただいております。代理の方の出席をされる場合の権限等を明らかにするというので、お手元に「松江市総合計画審議会委員の代理出席に関する要綱」を置かせていただいております。代理の方は、最終的な決議のときの権限はありませんが、この審議会に出ていただいて、ぜひたくさんのご意見をいただきたいということでございます。どうかよろしく願いいたします。

## (2) 審議会成立宣言

○須山政策部次長

本日の審議会でございますけれども、条例の規定によりまして定足数は委員の半数以上となっておりますので、この審議会が成立していることをご報告させていただきます。

## (3) 会長の選出

○須山政策部次長

続きまして、「会長の選出」について、でございます。

本審議会の会長は、委員の互選により決めるということになっておりますけれども、会長の選出にあたりまして、皆様方から何かございますでしょうか。

※特になし

もしもありませんでしたら、事務局の方で会長の腹案を持っておりますけれども、よろしいでしょうか。

※委員賛同

ありがとうございます。それでは、事務局の方から提案させていただきます。松江商工会議所会頭の古瀬委員に会長をお願いしたいと思います。皆様いかがでしょうか。

※委員賛同（全員拍手）

ありがとうございます。それでは、会長は古瀬委員をお願いしたいと存じます。古瀬会長、正面の会長席に移っていただきますようお願いいたします。

## (4) 諮問

○須山政策部次長

会長も決まりましたので、ここで松浦市長から松江市総合計画審議会に対しまして、諮問を行わせていただきます。古瀬会長は、恐れ入りますがご起立願います。

## ※諮問

只今、市長から松江市総合計画審議会会長あて、諮問を行いました。委員の皆様へは、諮問書の写しをお配りしておりますので、ご覧ください。

ここで古瀬会長から一言ごあいさつをいただきたいと思いますので、古瀬会長よろしく願いいたします。

### ○古瀬会長

古瀬でございます。よろしく願いいたします。会長ということですが、恐らく総合戦略推進会議の会長を務めさせていただきましたので、その流れでのご指名だと思いますので、よろしく願い申し上げます。

なかなか総合計画というと分かりにくいですが、今、市長からご説明がありましたように、国が人口減少に対応するため、それぞれの地域・自治体ごとに将来持続可能な地域社会をつくっていくために自ら考えなさいと。それに対して、新型交付金という形で政府は財政措置をいたしますと。いわゆる地方創生法に基づく総合戦略策定ということで、実はこの委員のメンバーの中にも重複した方が多数いらっしゃると思いますが、総合戦略推進会議で議論して答申をまとめ、市で総合戦略をおつくりになって11月に国へ提出をなさったということで、現在これが進んでいるわけです。推進会議自体も戦略をつくるだけでなく、後のフォローアップもやっていくということで推進会議という名前がついているわけです。まだ並行して進んでいるわけです。

一方で、またこの総合計画審議会ということで非常に分かりにくいのですが、実は創生法は、市長もおっしゃられましたように、人口減少に対応して持続可能な社会をつくるという非常に目的がはっきりしております。この総合計画というのは、松江市が将来輝く未来のためにどういう政策をもっと幅広くとっていけば、良い松江市ができていくのかということを経営的に考える。従来、県も市も10年でやっておられました。今回、市が5年ということでお考えになっておられるようでございますが、多分、社会環境が非常に激しく変わっていますから、あまり長くやっても途中で状況が大きく変わるということで非常に妥当な考えだと思います。5年の計画でやっていくということで、中身は総合戦略で議論したことに屋上に屋を重ねるという議論ではなくて、どちらかというと総合戦略の中で扱えていない、例えば、社会インフラ等は全く総合戦略の中には入っていませんし、社会福祉事業、主にセーフティネットに関する部分などは総合戦略の中に入り込んでいませんし、行政の効率的運営についても恐らく入っていませんし、そういったものがたくさんあります。これから少しずつ説明をしていただくとと思いますが、そういうところに論点を絞りまして、同じ論点を繰り返すことは時間が限られていますのでできるだけ避けて、効率的な審議会にしていただけたら良いなと思っております。何卒ご協力をよろしく願い申し上げます。私の方からは以上でございます。どうもありがとうございます。

### ○須山政策部次長

古瀬会長ありがとうございます。

これからの議事進行につきましては、条例の規定によりまして会長が議長となることとなっておりますので、以降の進行を会長にお渡ししたいと思います。よろしく願いいたします。

### ○古瀬会長

それでは、早速で恐縮でございますが、会長を務めさせていただくことにいたします。

それでは、議事に入ります前に、会議録署名者の確認をいたしたいと思います。

本日の会議の会議録署名者は、五十音順によりまして青砥委員と安部委員にお願いしたいと思いますが、皆様それでよろしゅうございますか。

※委員賛同

よろしゅうございますか。では、ご両者の方には大変恐縮ではございますが、よろしく願い申しあげます。

(5) 会長の職務代理者の選任

○古瀬会長

続きまして、「会長の職務代理者の選任」についてでございますが、条例によりますれば私が指名するようになっているようでございますので、私の方から恐縮ですが、指名させていただきたいと思えます。

会長の職務代理者は松崎貴委員にお願いしたいと思えますが、いかがでございましょうか。

※委員賛同

よろしゅうございますか。松崎委員よろしいでしょうか。

※松崎委員了承

ありがとうございます。では、どうぞよろしく願いいたします。それでは、そういうことで決めさせていただきたいと思えます。

(6) 議事 松江市総合計画条例第4条に基づく基本構想の策定について

○古瀬会長

それでは、早速議事に入らせていただきたいと思います。

まず「松江市総合計画条例第4条に基づく基本構想の策定について」事務局から説明をお願いいたします。

○星野政策部長

政策部長の星野でございます。私よりご説明申しあげます。先ほどからごあいさつにございますが、昨年、人口減少に対応するために松江市では地方創生のための総合戦略を策定いたしました。今年は皆様のお力をお借りして、新しい松江市総合計画を策定して参ります。

これまでの総合計画は自治法による基本構想の策定が義務付けられておりましたが、平成23年の法改正で義務付けが廃止されまして、市町村の独自判断に委ねられました。このように策定義務はなくなりましたが、松江のまちが持続性ある、住み良いまちとなるためには実効性のある、まちづくり全体の指針が必要であるとの考え方から、本市独自の総合計画条例を昨年12月議会で制定したところでございます。今まで10年間の総合計画でしたが、今回はより実行性を高めることに重点を置きまして、5年間の計画としたいと考えております。

また、昨年策定した総合戦略との関係でございますが、総合戦略でご議論いただいた分野を中心に据えながら、充分議論いただいていない分野、例えば、社会福祉、環境、教育、人権、社会インフラ、行財政運営など市民の暮らしに欠かせない分野を補完しながら、ご議論していただきたいと思います。

計画策定にあたりましては、本審議会のご議論を中心に、年代別タウンミーティングや市民アンケートなど多くの市民の皆様のご意見も伺いながら、共創のまちづくりの手法で取り組んで参り

たいと考えております。

審議会の開催は今年の秋口に最終答申をいただくような予定で考えておりますが、本日を含め3回程度と考えております。委員の皆様には大変ご多用の折、恐縮に存じますが、どうかご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、本日は、委員の皆様からできる限り多くのご意見をいただき、骨格を整えたうえで、次回の審議会で具体的な内容を盛り込んだものをお示しする予定としておりますので、よろしくお願い申し上げます。以上でございます。

## (7) 意見交換

### ○古瀬会長

ありがとうございました。

それでは、早速で恐縮ですが、意見交換ということで、これから進めさせていただきます。できるだけ時間いっぱい使いたいと思います。

それから、事務局から説明がありましたとおり、委員の皆さんのご意見をこれからお聴きしながら、次の審議会の資料に反映させていくということでございますので、全員の皆さん方からご意見を賜りたいということで、大変恐縮でございますが、お一人2分ぐらいの時間で全員の方のご発言をいただきたいということでございます。

それから、冒頭申しあげましたように、ご発言の中身はご自由でございますが、できるだけ総合戦略推進会議で議論したことについては、再びという形ではなく、新しい視点と言いますか、そこにはない視点でご意見をいただきますと大変ありがたいと思います。

それから、資料を事前にお読みいただいたと思いますが、私もアンケートの冊子を読ませていただき、中高生のアンケートは非常に良いアンケートで、将来松江市を担っていただく人たちの率直な意見が載っております。「とても暮らしやすい」、「まあ暮らしやすい」というのは中学生も高校生もあまり変わらず7、8割の方がそう思っておられるし、「愛着を感じている」というのも7割以上が思っておられます。高校生や中学生もこのまちが非常に好きだと。しかし一方では、高校生の『卒業後の進路』について、高校生は特に進学がありますので7割ぐらいの人が「県外へ進学したい」、大学は都会へ出たいと言っておられます。また、中学生の『今後の居住意向』については、「今の場所に住み続けたい」が3割ぐらい、「県外に移りたい」が3割ぐらいなので、随分印象が違います。自分が持っているこのまちの良い印象と、これからずっと住むかという問いかけについては必ずしも一致しない。なぜかという満足度もちゃんと調査しておられます。良いところはみなさんご存知ですから言いませんが、ニーズでこういうことがあったら良いなというところでは、遊びや食事や買い物の場がないとよく言われていることですが、それがそのままストレートに出ています。あるいは道路や交通機関が非常に不便とか、働きたくなるような会社が少ないなどを挙げておられます。こういうことだけでも若い人たちがなかなか住んでくれない理由がある程度浮き彫りになっているような気がいたします。そのようなことも踏まえて、全体の中から思いつかれたことを1つご意見として承りたいと思います。

進め方としては、大変恐縮ですが、委員名簿の順番、五十音順でお一人ずつお聴きして参りたいと思いますので、よろしくご協力をお願い申し上げます。

それでは、島根県農業協同組合くにびき地区本部の青砥さんお願いします。

○青砥委員

私は、今回のこの総合計画審議会ということで、初めて参加させていただいたところでございます。仕事場の名称のごとく、農業を中心に松江市の中で事業を進めてさせていただいております。

そうした中で一番の課題となっていますのが、担い手が不足してきているということ。結局、農業をやってくれる人が少なくなっているというところでございます。以前に比べまして、人口が減ればその分だけ農業という第一次産業に携わる人も減るのは当然なんですけれども、やはり今こうして考えてみますと、働き先として農業を選んでくれるということがなかなか難しくなっている。その辺りでの農業環境の整備というところが大事ではないかというふうに思っております。少子化、人口減少に併せて、そういった産業別の生活でき得る所得などを確保できる仕組みづくりとか、そういったことが今後の松江市の中で大事ではないかと感じております。簡単ですが以上です。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは続きまして体育協会の安部さんお願いします。

○安部委員

私は体育協会の専務理事をしております安部と申します。私は、今回体育協会の立場で、いわゆる社会体育を所管しておりますので、その立場からご意見を申しあげたいと思います。

お手元にあります「“新”松江市総合計画の盛り込む要素(案)」というペーパーを見ますと、スポーツというものが総合戦略の中の2番目のところ「松江の魅力に磨きを掛け、新しい人の流れをつくる」というところに位置付けられておりますが、日本の国の中では、スポーツというのは東京オリンピックを見据えまして、経済的な面で非常に国の活力、全体を上げていくための手段として注目されております。

その一方で、松江市ではスポーツが健康づくりに対して、非常に大きく寄与しているというふうな立場から施策を展開されております。そういった面で、将来都市像の中の社会福祉、生涯学習、こういうところとリンクさせていきながらスポーツを有効に活用していくという視点でご意見を述べさせていただきたいと考えております。よろしくをお願いします。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは続いて山陰合同銀行の西郷さんお願いします。

○西郷氏(今若委員の代理出席者)

本日は今若の代わりに代理出席させていただいております、西郷と申します。2点、お話をしたいと思います。

1点は、総合戦略にもありますけれども、インバウンドというところで観光振興、産業振興の点はあるんですけれども、もう一歩進めて、まちづくりに関して国際化がどんどん進む中で、若い人たちの人づくりのためにも国際化を図っていくために、インバウンドに力をどんどん入れていくべきではかならうかと考えているところです。

それからもう1点、コンパクトシティ化という問題があると思うのですが、何でもかんでもコンパクトにして良いのかというとなかなかそうわけにもいかず、特に合併をして松江市の中でも市街と中山間地に分かれて参りますけれども、今回の総合計画の中でも社会保障の部分にある程度視点を置いていくということになりますと、命の保障、住民の安全の保障というものは、効率化の議論だけでは進まないように思っております。効率化すべき公共施設の適正化の議論も含めて、効



率化すべきものとそうでないものをそれぞれ整理する中で、住みやすさの追求というものをしていかなければならないのではないかというふうに考えます。以上でございます。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは続いて松江サークルコネクションの太田さんお願いします。

○太田委員

松江サークルコネクションより参加させてもらっています、太田です。松江サークルコネクションは、先ほどのアンケートにもありましたけれども、遊び場が少ないなどの松江の不満などもあると思うのですが、その中でも遊び場を自分で作りながら活躍している人たちが集まった団体であります。そういった思いを今の小さい子どもたちにも引き継いでもらえる、又は、若い人たちと高齢者をつなげるようなコミュニティづくり、そういった人間教育の面から何かお力になればと思います。よろしくお願いします。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは公募委員の岡さんお願いします。

○岡委員

岡です。

まず総合計画の今年度までの計画に関して、それを踏まえて、また新しい状況も考えながら新しい計画を考えることが必要ではないかと思いました。

それと、先ほど会長が言われました中高大学生のアンケート、非常に松江に愛着があるということでアンケート結果が出ておりますけれども、高校生の『今後の居留意向』のところを見ると、「分らない」、「Uターンはしない」というような意見が多いと思いますので、資料の松江市総合計画基本構想（案）の中の基本目標①の「地域資源を活用し、個性豊かで強靱な産業を創り上げ、安定した雇用を創出する」、あるいは、基本目標②の「松江の魅力に磨きを掛け、新しい人の流れをつくる」。この中の政策でもって雇用を増やす、あるいは、人の流れをつくるということに非常に期待をしているところでございます。以上です。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは次に看護協会の春日さんお願いします。

○春日委員

看護協会の春日です。

市民アンケートを読ませていただきました。その中で 25 ページに、皆さんが『住みやすさを評価する際に考慮した点』で、「医療・福祉環境の良さ」、「地域や人とのつながりの深さ」というのが書いてございました。

私たちは健康づくり、市民の健康が第一だというふうに考えておりますので、健康寿命を延伸していくことで人口を一人でも減らすことがないように、地域に根ざした活動をして参りたいというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

○古瀬会長

では、次は学生交流ネットワークの葛西さんお願いします。

○葛西委員

島根県立大学短期大学部から参りました学生交流ネットワークの部長をしております葛西です。学生交流ネットワークというのは、中国地方の大学に通っている学生が交流しながら、各都道府

県の地域の課題に取り組んでいるサークルです。

先ほどまちづくりアンケートを読んでいたら、やはり大学生の部分で、まちなみへの愛着は持っているんですけど、趣味や楽しむ施設が少ないのではないかという結果がありましたので、そういう視点で、もう少し深く意見が言えればと思っております。よろしく申し上げます。

○古瀬会長

それでは、次は松江市高齢者クラブ連合会の狩野さんお願いします。

○狩野委員

狩野でございます。

高齢者の立場といたしまして、このアンケートにも大分出ておりましたけれども、交通網、買い物弱者というのが非常に多いのではないかということでした。大きな道路はバスもコミュニティバスも通るのですが、狭い所にはなかなか入っていただけないということ。それから中心市街地のお店が非常に少なくなったということ。

それからもう1点は、なごやか寄合などで、近所の方とは寄り合っていて楽しんでおりますが、もう少し健康寿命の延長に対しまして、スポーツや高齢者でもできる運動ができる場所、そういうものがあつたら良いなというふうに考えました。以上でございます。

○古瀬会長

ありがとうございます。では次に連合島根松江隠岐地域協議会の河原さんお願いします。

○河原委員

連合島根松江隠岐地域協議会から参りました、副議長をしております河原と申します。

連合という立場からお話をさせていただくと、全てにおいて活性化していく、まちづくりを良くしていくということは、総合戦略の10の重点プロジェクトの①にありますように「きらりと光る元気な企業群づくり」、ここに全てが集約されるのではないかというふうに思っております。

まずは地域の最低賃金を上げていくためにはどうしたら良いか。賃金が上がると、消費が増えていく、雇用が増える、そして人口が増加していくということにつながって参ります。

また、私の職場はかんぼ生命松江支店ということで、先月、私どもの支店長が松江の観光大使の委嘱を受けております。福岡の出身でございますけれども、「松江の食べ物又は観光といったものは全て当たり前ではないよ」と申しております。観光産業、ここをやはりより良くしていくというのが松江の明るいまちづくりにつながっていくのではないかと思っております。以上でございます。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは島根県立大学短期大学部の工藤さんよろしく申し上げます。

○工藤委員

工藤です。よろしくお願いいいたします。

私の立場からは、まず大学と観光というところで今後意見等を言えたらというふうに思っております。

大学の面で申しますと、ちょうど本学は今、四大化に向けて動いているところです。もちろん県立大ですので、どうしても島根県の意見というのがすごく反映されていきますけれども、その中でやはり大学の立地ということを考えますと、松江市とはとても密接に関係していますので、そこで松江市との関係をもう少し強化できていけたら良いのではないかというふうに考えております。

また、アンケートの結果にもたくさん出ておりましたが、「愛着」ということがかなりキーワードになっておりますが、四大化に向けて、その中で愛着教育、地元への愛着を持たせるような教育カリキュラムをちょうど考えているところです。そういったものが、総合計画にも反映できるのではないかというふうに思っております。また、高校生アンケートの結果を見ましたところ、高校生にとっては「大学や専門学校等、学べる環境のよさ」というのが、少し評価が低くなっていました。これがやはり四大化していくことによって、松江市内の高校生にとって魅力のある状況になるのではないかということが期待できます。

また観光という立場では、私自身が観光学ですので、先ほど市長さんからデータの活用ということがございましたけれども、私たちの教育の中で、例えば、学生が観光客にアンケートを取るといってしております。そのときに海外から来られた方たちへのアンケートを取ったときに、「松江の存在を知らなかった。米子空港に来て初めて松江のパンフレットを見て、お城の写真を初めてこちらに来た」という方がございました。そういった面でも、これからの情報発信というようなことも考えていくことができるのではないかというふうに考えております。よろしくお願いたします。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは宍道湖漁業協同組合の桑原さんお願いします。

○桑原委員

私の方からは、環境のことについて少しお話させていただきたいと思います。アンケートを見させていただきましたが、『松江の魅力』というところで、1番は「松江城」でした。これも嬉しいことなのですが、中学生も高校生も一般の方も「自然環境の豊かさ」、「宍道湖」といった言葉が2番、3番に入っていました。また、『松江市の特徴に対する認知度』というところでは、「宍道湖産シジミは漁獲量が日本一」というところが入っていて、私は宍道湖漁業の職員ですから、大変誇らしいと同時に身の引き締まる思いがしました。そうした自然からの恩恵を都市部に住みながら結構簡単に得られるのがこの松江の良いところでないかと思えます。こういった自然からの恩恵のことを生態系サービスというふうに言われるそうですが、そういった漁業というのはもちろん直接的なサービスでもあります。ちょっとエビ取りとか、ごず釣りをしてそれを食べられる、また、水質の浄化に生き物が寄与しているところも含めて、トータルとしてそういう生態系からの恩恵のことを生態系サービスというふうに言うそうです。松江市が今後5年間、また、将来にわたっても生態系の豊かな、生物多様性の豊富な松江市であるように、それを後世に守っていく。松江市においても豊かな生物多様性を後世に残す取り組みができていけたら良いのではないかというふうに思っております。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは続きまして松江市町内会・自治会連合会の後藤さんお願いします。

○後藤委員

私の立場からは、地域コミュニティづくりが薄れてきているということをお話ししたいと思います。

先ほど青砥委員さんから農業者が高齢化しているというお話がございましたが、まさにそれでございます。市街地と農村部と人口比率がどうなっているのか分かりませんが、面的にはやはり農

村部が非常に多いわけでございます。農業がこういった事情でございますので、最近では営農組合とか法人化が言われてきているということですし、農業の担い手そのものが地域全体ではなく、ごく一部の特定の人で農業を担う方向に迫々なっております。従来は村を挙げて、春、夏に水路掃除をするとか、ため池の堤防刈りをするとかいったものが、特定の人が担うようになってきております。地域がバラバラになってきているという点と語弊がありますが、地域全体でのことになっていない。そのことが色々なことに影響してきて、地域全体のコミュニティづくりというのが迫々薄れてきているような気がいたします。そのことが地域全体で支え合う福祉というふうなことになりますと、最近では色々な施策がありまして形としてはまとまっておりますけれども、根本的なところで地域がバラバラになっているということがありますので、形だけはまとまりますが中身がついていかないというふうなことがあるのではないかと考えております。それが1つの課題ではないかと考えております。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは次、島根県商工会連合会の桜井さんをお願いします。

○桜井委員

島根県商工会連合会、東出雲町商工会の桜井と申します。松江市には3つの商工会がありますけれども、それらを代表して出席させていただいております。

総合戦略推進会議のときにも言いましたけれども、経済団体として商工会があり、商工業の発展、雇用の確保は当然のことですけれども、特に3商工会は旧八東郡をエリアとした商工会であります。やはりだんだんと人口が少なくなってきておりますし、商工業も疲弊しておりますので、何とか元気あるまちづくりをしていかなければいけないと考えております。

特に、島根半島あたりはかなり厳しい状況に実はなっているわけでございます。色々と行政施策を行ってもらっておりますけれども、特に道路の整備とかインフラ整備もやはり必要ではないかというふうな気がしております。今後、私どもの経済団体でどういったことができるかということを含めて考えていきたいと考えております。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは続きまして松江市公民館長会の佐藤さんをお願いします。

○佐藤委員

松江市公民館長会から出ております、宍道公民館の佐藤でございます。よろしくお願ひいたします。総合戦略推進会議の方でも出かけさせていただいておりましたが、公民館が持つ役割は、総合戦略であろうと総合計画であろうと両方に含まれて線引きができない部分がたくさんございまして、なかなか難しいなと思っておりますが、松江市公民館の持っているコーディネート力を使っていただきたいと考えております。

それから総合計画の方で話をさせていただきますと、当然、インフラ、福祉体制、それから、公民館がメインでやっています生涯学習、青少年育成、人権等それぞれ考えられるのですが、多様な人材、色々な方がおられますので、もう少し公平なまちづくりを真剣に考えたい。例えば、ユニバーサルデザインをもう少しそういった観点から推進していく。どうも他県に比べて遅れているのではないかと気がしております。よろしくお願ひいたします。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは続いて松江市障がい者総合支援協議会の下山さんをお願いします。

す。

○下山委員

総合支援協議会の方から出ささせていただきました下山と言います。日頃は、障がい者の方の相談支援の仕事をさせていただいております。

松江市は色々な福祉制度やサービス、助成制度も進んでいると思うのですが、やはり障がい者の方が住みやすいまちづくりということを考えたときに、今、制度も進み、長期入院の方とか施設に入っておられた方が地域に移行されて、地域で生活されている方がたくさんいらっしゃいます。また、就労支援の方も進んで、一般就労されて、企業の中に入ってお仕事されている方もたくさんあります。そういった中で、色々な障がい特性があつて、関わりが難しい方もたくさんいらっしゃいますので、地域の方々のやはり障がい理解というところが大事な部分になってくるかと思えます。特別なこととしてではなくて、地域の方が本当に自然な形で障がいを持った方々に声をかけくださったり、見守ってくださったりすることが住みやすいまちになるのではないかと思います。

更に、旧郡部の方と中心部の方でも随分色々な条件も異なってくると思えますので、そういうところでもまた意見を述べさせていただけたらと思えます。よろしくお願いします。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは続いて老人福祉施設協議会の杉村さんお願いします。

○杉村委員

松江圏域の老人福祉施設協議会から参りました杉村由紀子と申します。よろしくお願いいたします。

福祉の立場からお話をさせていただきますけれども、福祉の中では今、**2025年問題**ということが大きくクローズアップされています。これは、戦後のベビーブームの団塊の世代の方たちが一斉に**75歳以上**の後期高齢者になられるのが、**2025年**というふうに言われています。これは島根だけでなく、日本を挙げての社会的な大きな問題ですが、現時点では**75歳以上**の方の**60%~70%**が要介護者状態であるというふうに言われています。ということは**2025年**、もう**10年**切っておりますけれども、その中で**6割~7割**の方が要介護になられたときの担い手がまずいない。今は施設で働く職員がいないというふうに言われていますが、地域全体を挙げて高齢者を支える担い手がないということが大きな問題だと思います。認知症の対応も社会的な問題になっています。これも専門家がというより地域を挙げて対応しなければ、徘徊の方であるとか、色々な問題を抱えていらっしゃる方、また抱え込んで共倒れするということや虐待ということもありますが、こういった認知症対応であるとか、要介護にならないための介護予防こういったことも、先ほど地域コミュニティというキーワードが出ましたけれども、専門家の育成ということはもちろん大事になって参ります。地域の中でどうコミュニティを再生していくかというところで、地域を挙げてもっと福祉に対する興味を持ち、要介護にならないための施策、又は、昔は向こう三軒両隣と言いましたが、そういった昔ながら地域コミュニティを再生していくことも必要ではないかというふうに考えております。以上です。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは続いて山陰中央新報社の瀬崎さんお願いします。

○瀬崎委員

山陰中央新報の瀬崎でございます。地元の新聞社として出席させていただいております。

少しソフト的、抽象的な話になるかもしれませんが、先ほどから話に出ています、アンケートを拝見してまして、今の中学生、高校生それから各世代の意識を反映しているなど思ったのですが、逆に課題も見えるなど思いました。それは何かと言いますと、地域の理解ということに対して、地元の何が良いのか、何がやりたいか、どこで遊びたいかということについて、我々が地元で取材活動をしますと、もっともっと松江というのは色々なものがあるのではないかとこのように思っております。それに対する理解を各界できちんと認識する。ここで住んでいく意識づくり、今議論されようとしている課題に対応するという意味を含めて動かしていくうえで、この計画の底流にそういう認識、地域理解ということが大事だと非常に強く思っております。例えて言いますと、松浦市長や古瀬会長が引っ張っておられる中海・宍道湖・大山圏域は、古くて新しい、新しく古いテーマなんだけれども、いま相互の理解で動き出そうとしている。今、市長が共創のまちづくりをやっておられることも、多分それぞれの課題を共有するということがないと始まらないのだろうなど思っております。松江らしい、ここで暮らすための、このまちを生き生きとしたまちにするための計画ということで、いわゆるインフラ、社会制度、地域制度という議論は当然大事だと思いますが、まず松江らしい計画をつくるために、コンパクトなまちであるがゆえに各界の皆さんが相互に理解して、課題を共有するような点を底流においた計画になると素晴らしいなど。そういう視点で議論させていただけたらと思います。以上でございます。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは日本政策投資銀行の竹内さんお願いします。

○竹内委員

日本政策投資銀行松江事務所所長をしております竹内です。よろしくお願ひいたします。私からは2点でございます。

1点目ですが、先ほど西郷さんからもお話がありましたけれども、コンパクトシティ化という点でございます。私自身、昨年度、市の公共施設適正化計画策定委員会の委員をさせていただきましたけれども、委員会の中で将来の財政負担の軽減や人口減少への対応策として、コンパクトシティ化に向けた取り組みは必要ではないかという議論がございました。コンパクトシティと言いますとまちが小さくなってしまわないかとか、あるいは、インフラが十分整備されなくなるということかとネガティブなイメージで捉えられがちですけれども、都市機能を集約化することによって、高齢化への対応や環境問題への対応、松江の利便性向上による魅力化アップ、これによる若い人たちの定住促進、新しい人の呼び込みなどポジティブな面も多々ございます。ぜひ、こういう観点での検討もお願いしたいというふうに思います。

2点目は観光とまちづくりに関して、でございます。昨年度、総合戦略推進会議の委員もさせていただきましたけれども、その中で観光客をもっと呼び込むという話が多く出ました。今回、総合計画策定にあたりまして、住民の皆さんのご意見を聴くというのは当然でございますし、このような形でお配りいただきましたアンケートもされているということでございますけれども、海外からの観光客を含めた外からの観光客にとっての利便性、あるいは、市内に滞在したときの満足度を高めるような施策というの、一方で重要ではないかと考えます。場合によっては、住民の皆さんにとっての利便性と観光客にとっての利便性というのが相対立することも考えられます。この辺りはバランスを取って、住民の皆さんにとっての住みやすさ、観光客にとっての魅力あるまちづく

りというのを両立させていただく方策を考えていただけたら良いなというふうに思っております。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは松江 NPO ネットワークの竹田さんお願いします。

○竹田委員

松江 NPO ネットワークの竹田です。総合戦略推進会議から引き続きお世話になります。よろしくお願いします。

5年ぐらい前に総合計画の後期基本計画を策定されて、私たち松江 NPO ネットワークは後期基本計画をみんなで読み込んで勉強しました。その際に、いくつかの基本目標があって、その1番下に住民みんなでまちをつくっていくんだという最後の協働という部分が、全ての目標にかかるのだよという計画の体系図が載っていたと思うのですが、それを見たときに、市としては住民と一緒にまちをつくっていくのだということを知りやすく図にくださっているということに大変心強い思いをしたのですが、そのときにはそのことを市役所の皆さんに「こういうふうになっているし、一緒にやっていきましょう。」と言ってもなかなか通じなかった感がありました。ですが、この5年間で随分変わったなということを感じております。

新しい総合計画基本構想の目次(案)も出ておりますけれども、総合戦略についても市長は市民運動で進めていきたいと何度も繰り返しおっしゃっています。行政だけでできることではないですし、市民だけでできることでもないというまちづくり、これからの激動の時代のまちづくりを、市民一人ひとりはもちろん、他人事ではなくという言葉も市長の言葉の中にありましたけれども、他人事ではなく個々にボランティアとして参加していく市民を育成していくとともに、もともと問題意識を持って活動している団体を育てていくとか、団体と連携していくということ、きちんと市民団体の側からも発信、提案していかなくてはいけないなということを思いながら拝見しました。それから縦割りの問題がいつもつきまとっていると思いますけれども、行政の仕組みから見たまちではなくて、市民生活から見た行政の動きというのを一緒に考えていければということをおっしゃっています。よろしくお願いいたします。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは公募委員の中澤さんお願いします。

○中澤委員

中澤と申します。私は現在、ウィメンズプロジェクトと子育て世代向け広報誌「ねえみちよって」の編集委員、サークルコネクションの方にもセレブレーション実行委員会の方から参加させていただいているご縁で、今回、こちらの方にお声掛けをいただき、公募させていただきました。

出生数と外からの転入数アップ、これはどちらとも、今、松江に実際住んでおられる市民一人ひとりの幸福実感度が高いことが必要になってくると思います。そういう点で、松江は実際に田舎過ぎず、都会過ぎず、バランスの良い、とても暮らしやすく、子育てもしやすい環境があると思います。ウィメンズプロジェクトの方では、女性目線、女性のパワーを活かしたまちづくりのイベントや企画の開催、その後、実際の様子をホームページや全国的なお出かけプラン共有サービス「Holiday」にも投稿することで、全国にも発信していきたいと思っております。

また、「ねえみちよって」という名前でも子育て世代向けへの広報誌を今編集しているのですが、こちらの方では、現在も楽しく役に立つ子育て情報の発信や、支援の必要などところへの提案など、実際一人ひとりの声を紹介したり、データを紹介したりすることで市民一人ひとりの方へ、今

の松江に住むことを考えていただいて、その問題に対しても自分事として考えていただく1つのきっかけづくりができればと考えています。以上です。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは連合婦人会の中島さんお願いします。

○中島委員

中島です。私が思いますのは、地域では交流している人はたくさんいますが、その人たちが他地区へ行くかという、その機会が少ないのではないかと考えております。ということになれば、色々と企業誘致があれば、もっと若者たちの結びつきも多くなりますし、活性化するのではないかと感じています。

都会にはない魅力のあるまちづくりを進めるため、収入面などももう少し都会並みに近づくようにして、若い人たちが流されないように何かをもっと考えていくべきではないかと考えております。以上です。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは医師会の野津会長さんお願いします。

○浅野氏（野津委員の代理出席者）

会長は所用で欠席ですので、代理で参りました副会長の浅野と申します。

松江市医師会は、母子保健、乳幼児、学校、産業保健、そして老人保健と一連の健康増進のための様々な事業を松江市と協力して行っています。

医師会は約350名の会員がいるわけですが、その内の約160名が、いわゆるまちの開業医であります。本日は、色々な業界の方がおられますので医師会のことを言っても何のことやら分からないという方もいらっしゃるかもしれません。それはお許しいただきたいのですが、地域包括ケアと称される国の方針が示されて、そのことで色々と行政及び医師会で検討を重ねていますが、私が今思いますには、野津会長がどう思われるか分かりませんが、関わることばかりが優先されていまして、今一つ具体的な動きにつながっていない。現実には、色々高齢者の方を見ている会員がたくさんいらっしゃるわけですが、これ以上何をするかというふうな声も聞かれます。

実際問題として、医師会の会員の、今の約160名の平均年齢が約60歳となっております。医師会自体の人材の確保というのが非常に問題になってきています。そこら辺りも含めまして、私どもも色々な面で協力させていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○古瀬会長

ありがとうございます。では、次に松江市21世紀ウィメンズプロジェクトの馬場さんよろしくお願いします。

○馬場委員

松江市21世紀ウィメンズプロジェクトの27年度のサブリーダーを務めさせていただきました馬場と申します。

松江市21世紀ウィメンズプロジェクトとは、松江市さんが松江市在住の20～40代までの女性を集めて、女性のリーダー育成というプロジェクトのもとに、女性のみで活躍させていただいている団体です。20～40代の女性ですので、だいたい子育て世代、フルタイムで働いている女性が多いです。21世紀ウィメンズプロジェクトのメンバーを見ても、積極的に活動をされている方はどうしても個人事業主、時間的に余裕がある方、専業主婦の方で、なかなかフルタイムで



働きながらこういう地域活動ができる女性というのが20～40の年代ではものすごく少なく感じます。私たちの世代で言うと、妊娠をし、出産をした後、産休や育休がとれずになかなか社会復帰ができない、フルタイムでは働けない女性も多いです。それは一般企業ですね。一般企業ではなかなか対応できないという結果にもつながっていると思います。

高校生のアンケートの中でも5年後の希望する松江市の姿として、「子育てがしやすく、医療や福祉が充実したまち」というのがありました。女性にとってフルタイムで働きながら子育てや家庭を持つということの大変さというものをもう少しこれから総合計画の中で考えていっていただきたいと思います。

それから、私自身も大阪からUターンしていますが、高校生や中学生は将来進学や就職で都会に出たいという希望もあると思いますが、今後はUターン者の受け入れ体制の強化もしていくべきだと思います。以上です。

○古瀬会長

ありがとうございます。続いて松江市PTA連合会の原さんお願いします。

○原委員

松江市PTA連合会の今年度より会長をさせていただいております、原と申します。よろしくお願いします。

先ほど、ウィメンズプロジェクトさんからもありましたけれども、現在PTAの方も両親共働き等ありまして、PTAの活動に対してもなかなか参加しづらいという状況があり、それに応じて地域の活動にもなかなか参加しづらいという状況が出てきております。

子どもたちに関しましては、学校のふるさと教育の中で、地域のまち中に出て行って学習することで、松江市に対しての愛着はかなりあるのではないかと思いますし、子育て環境も非常に恵まれているなど感じております。しかしながら、最近の子どもたちは、どうしても忙しい。小中学生がスポ小や塾などで時間を取られて、疲れて帰ってくるという状況があつて、いくら良いイベント等や遊び場があつたとしても、なかなかそういった場面に、休みの日に出てこれないといった状況です。その辺りがやはり課題だなというふうに感じております。子どもたちが学校で地域のことを学んで帰って来て、休みの日に親と一緒にまちの中に出ていくということがつれない状況です。本来ならば、親がまちの中に出て行って、その姿を子どもが見て一緒に学んでいくというのが必要ではないかと感じておりますが、それができていないというのが課題ではないかと思ひまして、今PTAとしても、そういったことを考えていけないのではないかと感じているところでございます。以上です。

○古瀬会長

ありがとうございます。松江青年会議所、本庄さんお願いします。

○本庄委員

青年会議所の本庄でございます。私たちは20～40歳代までの青年経済人で、手弁当で、ボランティアや地域を良くしていく活動をしている団体です。

中高生アンケートの「松江市の魅力」というところで、1位松江城、宍道湖と挙がった中で、我々も県外の方と色々とお付き合いさせていただくときに自慢できることはやはりこれらが上位に入ってくるのではないかと思ひながら、ちょうど2年後の2018年に松江城で全国シンポジウム、城下町シンポジウムを開催することを先日総会で青年会議所として決定しました。

最近、国土交通省が水辺の規制緩和をしており、この間宍道湖の水質調査をいたしましたら、泳げるような水質にはなっていました。今、サップというスタンドアップパドルというスポーツで近々オリンピックの種目になるであろうというスポーツがありますけれども、宍道湖はそういったものの国際大会を開けるような場所だと思っておりますので、そういったことを先駆けて松江市としてやっていくことも、これからの若い世代が残るためにも重要だと思います。

また、我々が1番思っているのが、半島部や山間部の活用です。例えば、我々が宍道の森林公園を使ってキャンプをしたり、鹿島の方に行って稚魚の放流などを勉強したりして、子どもたちに郷土愛を育成し、将来年を取っても愛着をもって住んでもらえるような活動を今後も続けていきたいと思っております。以上でございます。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは島根大学の松崎さんお願いします。

○松崎委員

島根大学では、この平成28年から始まります3年間の第3期中期目標計画期間の中で、特に地域貢献とグローバル化に対する対応みたいなことに重点を置いていくということで、学長は宣言しました。学内を挙げて動いているところです。

この松江市総合計画の中で我々が関われる部分としては、大きく2つあるのではないかと思います。

1つは総合戦略とも重なるところですが、人口対策のところでは、社会増を増やすというところには関われるのではないかと。と言いますのは、本学の場合、県内から2割程度しか来ておりませんし、その中で松江市から来ている人数となると更に限られます。これ逆に考えると、外から来ている人たちばかりなのです。ですから、この人たちに残っていただければ当然社会増になる。では、その人たちが残るかというところと大部分が出て行ってしまいます。大学生等アンケートを見ていただくと、『地域活動参加経験』の「ある」、「なし」でもって、大分評価が違います。例えば、『松江に対する愛着度』というところでも違いますし、「松江市内で進学・就職したい」や「市外に進学・就職したいが、いずれは松江に戻ってきたい」というところでも地域活動参加経験ありの方が多い。ですので、我々は学生にぜひまち中に出て行っていただいて、よく知ってもらい、それをまた友達に広げてもらうということを進めてもらうことで、地域未来共創学生ネットワークというものをつくっております。学生さんを中心に情報を広げてもらって活動してもらおうと思っております。ただ、彼らは交通手段が無いところが問題ですので、そういうところは市の方で色々ご協力いただければありがたいなというところがございます。

それからもう1つ、新産業づくりというところが、大学が貢献できる場所ではないかと思っております。ご存じのように、これから20年もすると今とは大分働き方が変わると。今ある働き口は大分無くなってしまふところがある。そういうときに、1つは人と人とのつながりということのをベースとしたような職業でしょうし、もう1つはまったく新しい産業であろうと。そこで今COC+という事業を動かしておりますが、新しい技術を入れて、試して、ものになれば、それを企業の方に新たに興してもらおうという流れをつくっておりますので、ぜひご興味のある方は大学に来ていただいて、色々一緒に仕事をしていただきたいなと思っております。その場合、1つ問題になるのは色々な規制がネックになることがあり、そのことに関しては色々ご相談差しあげたいと思っておりますので、ぜひ法律面で支援をしていただけるとありがたいなと思っております。以上

でございます。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは松江工業高等専門学校の箕田さんお願いします。

○箕田委員

松江高専の箕田と申します。今回初めての参加です。よろしく申し上げます。私の立場から1つだけお話させていただきます。

松江高専は90%を超える学生が県内、そして市内からは半分程度の学生がエンジニアということを目標に学校で勉強しております。しかしながら、先ほどからありますように、少なからず学生の大半は都市部の企業に流れていくというような現状もあります。このアンケートを見させていただいたところ、大学生の19ページのところにもございますように、「やりたいことに取り組む」といったところで仕事を選ぶという学生の希望があります。学生はやりたいことが松江市でできるか否かというのが不安な要素であると。そこで、地元の企業の魅力が発信されたり、新たな企業が誘致されたりといったような暮らしやすい松江市という環境の中で、自分のやりたいことに取り組めるような雇用の施策づくりといったものについて検討できると良いのではないかと、いうふうに考えております。よろしくお願いたします。

○古瀬会長

ありがとうございます。それでは最後になりましたが、JFしまねの山本さんお願いします。

○山本委員

圏域の漁協で、JFしまねと申します。圏域の漁協と申しあげましても、日頃から松江市さんに大変お世話になっておりまして、この場をお借りして感謝を申しあげたいと思います。

アンケートを見せていただきますと、意外とこの農林水産業多いなと思っておりますが、多分農業さんの方がはるかに多いのではないかと思っております。我々の業界も年々漁業者が減りまして、約10年間で30%以上減っております。このまま漁村集落が衰退いたしますと、特にこの島根半島の漁村集落の衰退というのは大変多ございまして、大変心配をしているところでございます。

ただ一方では、皆さんもご存じのとおり、魚を食べられる方はたくさん増えております。その辺りをバネにいたしまして、まずは漁業者自らが知恵を出して、工夫をして、漁業が力強い産業として皆さんに認知をしていただくように、今、水産日本の復活、片方では、水産島根の復活を目指して日々邁進しているところでございます。このような会議を通じまして、私どもも皆さんのご意見を色々頂戴しながら勉強させていただきたいと思っております。

どうかよろしくお願いたします。

○古瀬会長

たくさんのご意見をいただき、ありがとうございます。以上で30名の方全てに、非常に広範囲にわたるご意見を頂戴いたしました。短い時間でご発言しにくかったとは思いますが、一応思いつかれるところをお話いただきました。

最初に資料としてお配りしていただいております「“新”松江市総合計画に盛り込む要素(案)」という一枚紙があると思っております。その一枚紙の中である程度整理してありますが、総合戦略で議論したことが上の方に黒い字で書いてあると思っております。なかなかそこで議論が尽くせなかったことが下の方に赤い字で書いてある。そういう分類で仮に今いただいたご意見を分類して

みますと、どちらかという一番上に書いてあるセーフティネットに関するご意見が多かったように思います。

商工会連合会さんのように社会インフラが大事なんだと。ネットワークをつなぐことによってある程度地域活性化するんだということももちろんありましたし、宍道湖漁協さんの環境問題に取り組むべきだということももちろんあったのですが、総合戦略と重複しない範囲の中ではセーフティネットが圧倒的に多い。例えば、老人福祉施設協議会さんからの2025年問題、要するに、団塊の世代が後期高齢者になっていくと、担い手をどうするか、中には認知症の方もたくさん出てくるしどうしたら良いのか、担い手もいないのに。恐らく想像されるのは、老後の生活困窮者であったり、あるいは、認知症であったり、様々あるわけです。そういうものに対して、行政サービスだけで本当にやっていけるのかどうなのか、こういう疑問ですね。それから、高齢者クラブ連合会さんからは、買い物弱者、実際日々困っているんだというお話ですとか、先ほどの認知症などのお話で言えば、在宅介護や看取りなどは本当に今の病院だけで全部できるのか、そういうことだって十分問題にあがってくるでしょう。また、障がい者支援協議会さんからは、社会ではかなり受入れがなされているけれども、重度の障がい者の方はなかなか自立が難しいわけですが、それを社会としてどうやって、例えば、声掛けだけでもそれだけで住みやすくなるというご提言でしたけれど、地域がどう関わってそうした方々をちゃんと地域の問題としてやっていくのか。要は、行政サービスだけでは恐らくこれから先、きちんとそういう方々のセーフティネットを張り巡らすことができないのではないかという非常に大きな不安があるわけです。これは、総合戦略の中ではあまり議論されなかった視点だと思います。そういうことを含めて、ではどうするんだと。

一方では、公民館長会さんからは、問題を解決する能力を公民館は持っているのもっと活用されたらどうかというお話も出ておりました。それから、町内会自治会連合会さんからはコミュニティそのものが崩れていて、なかなか問題解決をコミュニティの中で補完していくことがもうできなくなっているのではないかという危機感ですね。それをどうやって立て直すんだと。

様々なヒントがこれまでのご発言の中にあっただかと思えます。そういう観点から、これからは行政サービスで全てはできませんが、NPOネットワークさんからありました団体活動自体をネットワークして解決、市民参加、共創というのも1つの方法ですね。そういうものをいかに有機的に、複合的に組み合わせて1つのモデルと言いますか、実際に機能する形をつくっていけるのが非常に大きな課題になっています。

そういう点で残された時間、皆さんフリーで結構ですので、ではどうしたら良いんだと。要は、今までは全て、基本的に困ったことに対しては、行政サービスで対応してきたという事実があるわけです。それに対して、もうなかなかできませんと。あとは自分たちが何ができるかを考えなければならない。例えば、買い物弱者については、近隣同士で話し合っ、当番を決めて、店をつくって、仕入れてきて、近所の人があるを買おうというようなコミュニティで問題を解決するのが良いのか、色々な方法があると思うんですね。そういうことの方向性について、もちろん難しい問題ですのでそう簡単に結論はできませんが、せつかく委員の皆さん方が各界から出ておられますので、こういうふうにしたら具体的にそういうものが解決できるのではないかとこのころを、ある程度のご提案があれば、ぜひ聞かせていただくと。この次の会議のときに、市が調べてある程度の形をつくってきていただけたらと思います。そういう問題を共通の認識として持って

いただいて、そこをどういうふうに解決していくのか、ぜひ皆さん方のご意見をお聞かせいただきたいと思います。

○佐藤委員

アイデアではないのですが、確認のために、何が問題なのかが明確でないために、意見を言うにも言い切れない部分があって、この2007年から2016年までの総合計画の目標値がそれぞれ載っております。この現状値というのは、そのときの、前の数値だと思うのですが、何ができていて何ができていないのかも分からない状況で、私の勉強不足かと思うのですが、どこかに書いてあるかも見えないのですが、今どの程度なのかが見えないと意見を言いようがないという部分が1番ございます。アイデアを出せと言われてもパッと出てこないという意見でございますが、いかがでしょうか。

○星野政策部長

確かにおっしゃるとおりだと思います。毎年、総合計画には検証委員会がございまして、市民の代表の方々にお集まりいただいてチェックをしていただいております。この結果を次回までに準備をさせていただきたいと思います。できれば各委員さんの方に事前にお配りをしたいと思います。準備ができ次第、お配りをさせていただきたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

○古瀬会長

1つはコミュニティ活動の興し方、コミュニティ活動が壊れていることについて、どういうふうに修復をしたら良いのかというのが非常に大きな視点だと思いますね。

例えば、私は雲南市に依頼を受けまして出かけて、アドバイザーとして色々なことをやっているわけですが、そこでは地域単位で色々なことをやっているわけですね。そのアプローチと言いますか、例えば、雲南市では地区を30や40くらいに分けて、ここでいうと公民館や町内会と同じレベルにいくつか分け、それぞれの地区の問題点を自らに語ってもらうというアプローチをするんです。その地区が1番困っていること、買い物であれば買い物についてみんなで話し合って具体的に解決する。それを行政が支援する。別の地区は、独居老人が多くて看取りが1番問題だと。病院に入りたくない、在宅でやりたい、ではどうやって在宅介護というものをコミュニティの中でできたのか。結果的に実施されたことは、人を雇ってきて、県外からIターンの看護師3人を連れてきて、会社をつくって、在宅介護をやって、1年間で黒字にしたわけですね。それはリーダーがいるからできるのかもしれませんが、その地区も最大の問題として取り組んでいるわけです。つまり、今何ができていないかということももちろん大事ですが、住民の方たちがいかに地域の問題に主体的に関わって考えるかということが大事です。今皆さんがおっしゃったように、たくさん課題があるわけですね。では、2025年に後期高齢者や認知症の方が増えたときにどうするのか、具体的にそういうものを突き付けられているわけです。そういうものに対して2025年までに我々は何ができるのかということ具体的に考えていかなければいけません。過去も大切ですが、これからそれを解決する道筋は何なんだと、もちろん行政は行政サービスとしてやられるわけですが、そこから漏れてくるものは必ず出てくるわけですね。それを本当に市民レベルで真剣に考えないと、なかなか行政の中から手を差しのべるだけでは届かない。結果的に住民が1番困ることになるわけです。困る前に議論を地域ごとにしていくというアプローチが必要だと思うんです。これが地方創生のある種の肝みみたいなものです。どこまで我々が我慢でき

るのか、どこまで助け合えるのか、どこまで行政サービスで補完して安心して住めるのか、今よりも少し不便になるかもしれないけれど、ずっと生きていくことができるのか、みたいなことをギリギリ考える必要があるわけです。こういうことは今までは経験したことがないんですね。ほとんど行政サービスで済んでいたわけです。人口が増える時代においてはですね。そういうことの意識の転換が必要でして、自らが考えるという行動を起こす必要があると思います。そういう意味ではこういう会議は非常に大事でして、各界から出ておられる人たちが現場にいらっしゃるわけですから、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。こういう問題が起きているんだけど、どうしたら良いのかという問題提起でも結構です。

○松崎委員

私の方からこんなことできたら良いなというお話をさせていただきたいのですが、今、学生さんが学費の問題、お金の問題で結構苦勞されています。優秀な学生さんが大学院まで残られない。その一番の理由はお金です。一方、地域のコミュニティの中には、若い人がいてくれたら色々刺激になるし面白いという声がある。特に田舎に学生さんを連れていくと生き生きとします。まちの人たちもすごく期待して色々なことをしていただける。となると、例えば、これは民業圧迫になるかもしれないのですが、下宿をさせていただけないかと思えます。色々な地域にですね。そうすれば、家賃はほとんど要らないよと。いてくれるだけで良いから、その代わり何か少しお手伝いをしていただけないか。日曜日には自治会で何かやるから少しお手伝いいただけないかなどその程度で良いから、その代わりに下宿を提供しますよ。場合によっては、私のところの車を使っていいですよ。そういうことをしていただけると、学生さんは地域の活動も分かるし、外から来る学生が多いですからある意味松江に親戚ができたという形にもなるのではないかと思います。そういうことをしていただけると、学生さんは浮いた家賃で更に勉強をしたいということもできますし、今の勉強のためにもっとお金が必要になることもありますし、アルバイトの時間を勉強に充てることができるので良いと思います。只一つ気になるのは、アパート経営をされている方がたくさんいらっしゃいますので、その辺りをどうするかという問題はあると思いますが、そういうことをぜひさせていただきたいなと思っております。

○古瀬会長

すばらしい提案だと思います。若者と高齢者の対話の促進や助け合いの精神など非常に良いご提案ですね。試験的にやってみると面白いですよ。全体的に、全部がそうするのではなくて、モデルのような新しい試みというのは非常に必要だと思いますね。

○松浦市長

今の先生のお話は、大変前向きなご提案で、素晴らしいご提案だと思ったのですが、結局、今のコミュニティ、地域の中で何が一番悩んでいるかということ、顔触れが変わらず、だんだん歳をとってしまふ。何かを共同でやろうとしても、だんだん歳をとってしまっていて大変だみたいな、要するに沈滞ムードがそこに溜まっていくわけです。したがって、そこにそうした若い人たちが一人でも二人でもそこに住んでもらうということになると、すごく刺激が出てくると思いますし、大変な作用を及ぼすのではないかと思います。我々はぜひ一度検討させていただきたいと思っております。

○春日委員

総合戦略の全体像の中に基本目標4というのがあると思います。ここの中で、私たちは健康と

いう切り口で、何とか地域の皆さんが元気で暮らせるようにということで、「まちのほけんしつ」を考えてみました。その中で、看護師や医療従事者だけでなく、松江市には松江医療専門学校がごございますので、その方たちにもボランティア等になっていただいて、「まちのほけんしつ」の下に「福祉ボランティアポイントの創設」が書いてございますので、そういうことをしながら、健康という切り口で色々な問題やお話を伺う機会があればと思います。

在宅医療はなかなか進んでいるようで進んでないと思いますし、また、先ほどおっしゃいました地域で看取りをするというようなことも実現できるかどうか分かりませんが、買い物にいらっしゃった方々に在宅医療の情報や、色々な問題があったらそれを聴いて実際に市役所の方へつないでいたり、逆に、市役所の方でもなかなか健康診断の受診率が上がらないとか、そういうふうなことがあれば、お一人おひとりを通して、そういう問題を解決をしていければということで、ボランティアの方として、学生さんたちとも一緒にやっていければ、少しでも活性化や元気づいていくのではないかと思います。

○古瀬会長

その際に具体的にどういう形で進めたら良いと思われませんか。

○春日委員

今は看護職でリタイアされた方々もたくさんいらっしゃいます。1、2日であつたら協力できるという方々もたくさんいらっしゃると思いますので、そういう方々にボランティアという形でやっていただいて、「福祉ボランティアポイントの創設」もありますので、もしそういうことが一緒にできれば、やっていただけたらと思っております。

○古瀬会長

それは、推進母体をつくって、そこで呼びかけながらやっていくということですね。

○春日委員

そういうふうには、もしできたらと思っております。

○古瀬会長

まず現場の実情をボランティアしながらよく把握し、そして、それを市につないでいくと。

○春日委員

そうです。必要ならば市につなぎ、逆に、市から地域の皆さんに説明してほしいと言われれば、医療に関する知識も併せながらそこでできればと思いますし、医師会さんとも連携させていただけたらというふうに思います。

○古瀬会長

確かに我々自身も知らなさすぎるわけですからね。

○杉村委員

今ちょうどボランティアポイントというキーワードが出ましたので、意見を述べさせていただきたいのですが、先般、ちょうど松江圏域の老人福祉施設協議会に、松江市の方がいらしてくださいまして、ボランティアポイントについてお話を伺って、若干討論させていただいて、その中でも意見を述べさせていただいたのですが、いわゆる福祉では担い手がないことが大きな問題です。2025年問題というのも近い将来迎えますが、その中でボランティアというのは非常に重要な位置付けではないかというふうに思います。それは、例えば、保育園から、小学生から、中学から、高校から又は家にいらっしゃる子育てをしながらの女性であるとか、今松江市は元気高齢

者のボランティアポイントということで進めておられますけれども、そうではなくて、子どものときから色々な世代の方がボランティアポイントを使って、今松江市のランチパスポートとかもありますよね。例えば、5回ボランティアをしたらランチパスポートをもらえるとか、そういうちょっと目新しい形をとってみる。本当はボランティアなんかしたくない、福祉に興味はなかったけれども、ランチパスポートをもらえるなら子育て中の赤ちゃんを連れて3人グループぐらいで行ってみようかな、そういう気軽な気持ちでしていただくことがきっかけでも良いと思います。そうすると、やりながら、例えば、福祉に興味を持っていただいたり、認知症のことが分かってきたとか、年をとるとはこういうことなんだとか、興味がわくことで将来の担い手の確保につながるかもしれませんし、実際ボランティアの方が増えるということは現場の者も非常に助かります。ですので、ボランティアポイントを多角的な視点から取り入れてみるのは、松江市らしくて面白いのではないかと思います。ランチパスポートでなくても、法吉公民館さんの方へはお話をしたのですが、今は高齢者の方が対象ですので、5回来ていただいたら、うちの近所の喫茶店などでランチしていただくようなことも楽しいのではないかと提案をさせていただいております。ボランティアを通して、教育、高齢者、障がいなどへの理解につながっていくので色々な効果が期待できるのではないかと、先般、松江市の方にも提案させていただいたところです。以上です。

○古瀬会長

確かにボランティアというのは、1つの社会問題を解決するために、有力な1つの切り口なんですね。公民館活動とか自治会と同じようにボランティア活動、ちなみに松江市にはボランティアのセンターというものはあるわけですか。誰かがやはりコントロールしなければいけませんよね。ボランティアは分野ごとにネットワークをつくってさしあげなきゃいけませんよね。そういうお世話はしてあるわけですか。

○須山政策部次長

松江市の社会福祉協議会の中にボランティアセンターを置いておまして、そこがコーディネートすることになっているのですが、なかなか全ての皆様がそこへ参加していただいている状況ではありませんし、名前にしてもまだ売れてない部分もあったりいたしますが、基本的にはそこが主になると思います。

○古瀬会長

それは少し大きな問題かもしれませんね。せっかくそういうふうな意見が出ていますから、ボランティアセンターの充実は非常に重要な視点だと思いますね。色々な種類ごとに、例えば、体の不自由な方でも色々あるわけです。例えば、知的障がいとか統合失調症などなかなか社会に入っていくづらい人に対してどういうふうにするのか、など色々な形があると思います。言ってみれば、健康づくりなどもその1つかもしれません。色々な分野があると思いますね。介護もそうでしょうし。様々な分野ごとにボランティアをネットワークして、その活動を充実させ、組織的に、体系的にやっていくという、そういうお世話というのは行政がやっていくべきかもしれません。なかなか自然発生的には、僕らも森のネットワーク会議というのをつくっていますが、すごく苦労したんです。そもそもNPOとか、NGOというのはそれぞれが活動することが全てで、横の交流をあまりしたげられないんですね。ですが、それを束ねてネットワークにして情報を交流させた方が、はるかに組織的に効率的だと思います。そういう機能を充実するということが1つ



のご提言だと思いますけれども、1つのアプローチかも知れません。

○西郷氏

ボランティアの話が出ましたので、個人的に新しいアイデアがあるわけではないのですが、ボランティア先進地というのが岡山県真庭市にあり、人口5万人弱、ただしボランティア加盟者、登録している人が1万人を超えている。これは老若男女合わせてです。下は小学生からボランティアに参加していて、市民の5人に1人がまちづくりに参画しているという解釈もできると思うのですが、厚生労働省も注目している地域のひとつでございまして、今会長の方からもコミュニティについて、雲南市の例が挙げられましたけれども、他の先進地域に学びながら、色々それを取捨選択する中で、松江市独自の、松江市に見合った形を模索するというのも1つのやり方なのではないかと。先進地域の研究を1つしてみてもいいかというふうに思います。

○松浦市長

今のボランティアをリードするという話で、これは非常に大きな課題でして、我々もそれをずっと目指してきています。その中心となる場所をスティックに置いてやっているわけですが、竹田さんがよくご存じのように、たくさんのボランティアと言いますかNPOがそこに入っているわけですが、本当は我々としてはそこを、その団体自身で、色々な形で、運営も自主的にやっていただきたいと。そういうボランティアと言いますか、NPOが活動しやすいようなお世話をそのNPOがやっていただくというのが1番理想的だということで、ある程度そういう方針で今までもやってきていますけれども、なかなかNPOなり、ボランティアの皆さん方というのは横の連絡が非常に難しいというところがあって、今、我々の理想とするところまではいっていないのですが、その辺りは竹田委員さんいかがですか。

○竹田委員

はい。古瀬会長にも松浦市長にも今、NPOは横につながりたがらないと言われてすごくショックを受けているのですけれども、そのようなことは段々なくなってきました。世の中の補助金もそうなのですけれども、民間の助成金も今は複数の組織が一緒になって課題を解決しようということが評価されるようになってきていますので、NPO同士であったり、NPOと企業であったり、NPOと他の市民団体というものが一緒にやっという機運はものすごく高まってきていると感じています。市民活動センターの活用については、私たちが色々なことを思っていますし、ご提案もしているのですが、今年度、ぜひ市民活動センターをより市民活動の拠点としての良い場所にしていきたいという提案もしていきたいと思っていますので、ご一緒をお願いしたいと思います。

ボランティアの話ですけれども、ボランティアというのはあくまでも個人の意思で、無責任であっても構わないものです。ですので、まちづくりに個々の人たちがボランティアで関わろうという意思は尊いし、大切だし、大事にしていきたい、高めていきたいんですけども、責任をもって個々に何かをしてほしいということは言えないので、やはり組織化していく。ネットワークが大事だと先ほどからおっしゃっていますけれども、ネットワークになっていくことが大事ではないかと感じています。

○古瀬会長

いずれにしても1つの切り口として、そこは非常に重要な視点だと思います。私がやってきた経験ではボランティアネットワークというのはとても強いですが、実は、しかし、ネットワークに

しないとどうしても弱くなるんです。ですから、全てを1つにするのではなくて、おっしゃるようにボランティアをしたい人はそれぞれの目的や考えがあるわけです。「こういうことがしたい。」と思っている。それが1番大事なわけですから、それを上手く分類して差しあげて、その活動がしやすいようにコントロールする必要があるわけですね。リーダーシップを発揮する必要が、多分ボランティアの活動では必要だと思うのです。全て自主的に任せるといのはなかなか実は難しいんですね。今日の1つの話の方向性として、やはりボランティアというのは貴重なんだということは皆さん認識されたと思います。1つの社会の問題を解決していくための1つのアプローチであるということは間違いないようですから、そういうことを1回研究していただいて、改めて皆さん方のご意見をお聞きするというにしたいと思います。

今日もだいたい時間も押し迫ってきまして、こういう議論は総合戦略推進会議の方でもあまりやっておりますでしたけれども、私自身の個人的考えかもしれませんが、地方創生の肝というのは住民自身が主体的に議論し、行動するということが大前提であるわけです。今まで、日本社会はそれに慣れていないんです。何か不自由があったら、お願いしますと言えばいくら話を聴いていただけて、100%ではなくとも何とかそれなりの結果が得られてきているということなのですが、少し社会がガラッと変わりましたよという認識が必要なのです。ですから、やはり主体的に議論をしながら自分たちで解決する、全部できるはずありませんけれども解決しようとする、そこに行政のサービスが一緒になってより大きな効果を生んでいくというのが1つの地方創生の肝のような気がいたしまして、それであえてこういう議論を今日はさせていただきました。

また次回は、市役所で資料を出していただきまして、それに基づいてまたそのときに必要なやり方で、皆さんからできるだけたくさんのご意見をお聞きしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○松浦市長

本日は活発な議論をしていただきまして、誠にありがとうございました。

今日は色々な論点があったように思います。先ほどのボランティアというものです。私たちはボランティアについてこれまでも必死になって色々なこともやってきているわけですが、ボランティアというのはどちらかと言いますと、いわゆる課題解決型の団体ということになるわけですが、一方で私たちは地域を抱えていますので、地域の中でどういうふうな課題をどういうふうな形で解決していくのか、そうしたときに、ボランティアと地域との結びつきというのは永遠の課題なんです。結局、ボランティアの場合は、1つの共通する課題をどういうふうにするかという松江市の中で解決していくのかというアプローチの仕方をやるわけですが、1番困っている地域があった場合に、そこにボランティアの知識なり、そういった行動力というものをどういう形で結びつけていくかというのも1つの課題ではないかというふうに思っています。

それと、今日はそれぞれの団体の皆様方からそれぞれの団体で考えておられるような色々な課題ですとか、そういうふうなものを出していただきました。先ほど古瀬会長からもお話がありましたように、課題を出すと同時に、例えば、こういうふうなことをやったら少しでも解決するのではないかという、できましたらその課題の解決方法と言いますか、そういうふうなものも併せてぜひ議論を出していただきたい。

この総合計画というのは、抽象的な文章が並んでいるというふうに思いがちですが、実は総合計画の1番の大切な部分というのは具体的な事業がどれだけその中に入っているかという、そこ

が1番私は大変大事だと思っております、できるだけ具体的な課題とそれを具体的にどうふう  
に解決していくかという、そういったものを、ぜひ議論していただきたいと思います。その場合  
の議論の参考になるように、先ほど冒頭で私が申しあげましたように、色々なデータを行政は持  
っておりますので、そうした議論の参考になるようにこれからデータを提出させていただき、議  
論に寄与したいというふうに思っておりますので、どうぞこれからもぜひ松江市に対する愛着心  
をベースにしまして、色々な活発な議論をよろしく願い申しあげたいと思います。

ありがとうございました。

○古瀬会長

どうもありがとうございました。時間が足りなくて、皆さんに十分に話していただくことがで  
きなかったかもしれませんが、次回、また改めまして資料を用意したうえでご意見を賜る会にし  
たいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。今日は本当にご協力ありがとうございました。  
それでは事務局へお返しします。

○須山政策部次長

古瀬会長、円滑な議事進行、どうもありがとうございました。委員の皆様には本当にたくさん  
の貴重なご意見、ご提案ありがとうございました。今日の内容でご不明な点等がございましたら  
事務局の方にお話しただけたらと思います。それと同時に、今日もお話しいたしました各種デ  
ータ等につきまして、逐次、皆様方にお送りさせていただきたいと思います。また現行の総合計  
画の進捗状況についてもお送りさせていただきたいと思います。

そして、総合計画とは何なんだということにつきまして、今日ご出席いただいて大体何なのか  
というようところが分かっていたのではないかと思います、今後、こちらの方から文  
書で、色々とお話になれなかったような課題であったり、それからご提案であったりという  
ものをいただければというふうに思っております。また、事務局の方から皆様方にファックスな  
り、メールなりでご回答いただけるような形でご意見をいただこうと思っておりますので、ど  
うかご協力をよろしくお願ひいたします。それによりまして、素案といった形をつくっていか  
うと思っております。

次回の審議会については、まだ詳細未定でございますが、今日秋口までのところでという話を  
しておりましたので、それまでのところで、中間の第2回審議会をさせていただこうと思ってお  
ります。また、日程も調整させていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは以上を持ちまして、第1回松江市総合計画審議会を閉会させていただきます。ありが  
うございました。